

## 日光街道を歩こう会

(草加宿)

記

- 日 時：平成 31 年 3 月 29 日 (金) 8 時 45 分集合
- 集合場所：所沢駅 池袋行きホーム中央
- 見学場所及び時間：コース全長約 5.5km  
所沢駅(8:49)⇒秋津・新秋津⇒南越谷・新越谷  
⇒草加駅 (東武伊勢崎線浅草行) (9 : 56)  
⇒大川本陣・清水本陣跡⇒歴史民俗資料館⇒東福寺⇒神明庵  
⇒草加松原・札幌河岸公園⇒蒲生の一里塚⇒ぎょうだいさま  
⇒蒲生駅⇒新越谷・南越谷⇒新秋津経由 所沢 (15:30 頃帰着予定)
- 交通費 (所沢から) : 約 1,700 円
- 昼食 11:30 頃 ガストの予定
- 散策先簡単ガイド

### <草加宿>

徳川家康が五街道を整備した当時、草加あたりは沼地が多かったため、千住から大きく東に迂回し古利根川と元荒川の自然堤防に沿って越ヶ谷に至る経路を取っていた。慶長 11 年 (1606) 年、大川図書 (ずしょ) が先頭に立ち低湿地を土、柳の木、葦などの草で埋め固め、千住ー越ヶ谷間をほぼ一直線に結ぶ新往還道を築き上げた。徳川秀忠は喜び、「草を以て沼をうづめ、往還の心安すきこと、これひとえに草の大功なり。このところ草加といふべし」と言った。これが「草加」の地名の謂れです。当時、千住と越ヶ谷間には宿場が無かったが、寛永 7 年 (1630) 千住に次ぐ二番目の宿となりました。

天保 14 年 (1843 年) には、本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠 67 軒、問屋場 1 軒となり、千住宿、越ヶ谷宿、幸手宿に次ぐ規模でした。

### <おせんさんの像>

おせんさんは草加煎餅をつくった人で、茶店で売れ残った団子を押しつぶして乾かして焼餅として売り、これが名物になりました。おせんさんの像は草加駅前にある。



### <道路元標>

明治44年建設のもの、正面に「越ヶ谷町へ壹里三拾三町三拾間三尺 千住町へ……」などと書かれている。その先の草加小学校は大川図書の屋敷跡です。

### <八幡神社、獅子頭>

享保年間（1716～36）に稲荷神社を祀ったのが始まり。雌雄一對の獅子頭（市指定有形文化財）がある。



### <藤城家住宅>

町家建築として貴重な明治期から昭和初期の建物。住宅店舗、内蔵、外蔵は国の登録有形文化財。



### <大川本陣跡、清水本陣跡>

石碑があります。大川本陣は草加宿を開いた大川図書の一族でしょう。

### <歴史民俗資料館>

郷土の歴史資料や民俗資料を展示していますが、埼玉県初の鉄筋コンクリート造校舎で、国の登録有形文化財となっています。この前身である草加小学校西校舎を設計したのは大川勇氏、草加小学校は大川図書の屋敷跡です。



### <東福寺>

大川図書が、1606年に創建した寺院。本堂、山門、鐘楼は江戸時代後期の建物です。草加の宿場町を開いた大川図書は境内の墓で眠ります。本堂外陣の欄間は市指定文化財です。

鐘楼の隣りにある「三鉢（さんこつ）のまつ」は落ちた松葉を持っていると良いことがあるとも、金運が上がるともいわれます。



### <神明庵>

江戸末期の町家建築ともいわれる旧久野家店舗の建物を利用したお休み処。観光案内や湯茶の接待が受けられます。



### <神明神社>

草加宿の総鎮守、5と10の付く日に市が生まれ、大変な賑わいをみせたと言う。このことから、この神社の別名を「市神・神明宮」と呼ばれている。鳥居のかつての礎石にイギリス式の「高低測量凡(き)号」があります。現在の水準点にあたるもの。

### <草加松原>

この並木は天和3年(1683)関東郡代伊奈半右衛門が綾瀬川を改修したとき植えたもので千本松原ともいわれる。

松尾芭蕉が旅した「おくのほそ道の風景地」(10県13カ所)の1カ所として、「草加松原」が国の名勝として指定を受けました。スカイツリーにちなんだ634本の松が約1.5kmにも及ぶこの松並木は、ゆったりとした石



畳の散策道に整備されている。江戸時代からの古木も 60 本ほど残されている。

## 札場河岸公園

草加松原遊歩道の南側に位置し、綾瀬川舟運の船着き場を再現して整備された（もともとは甚左衛門河岸）。公園内には、草加の地を訪れたとされる**松尾芭蕉の像**や県指定文化財に登録される**甚左衛門堰**のほか、松並木や綾瀬川を一望できる**五角形の望楼**など、宿場情緒あふれる建造物が立ち並びます。松尾芭蕉の記した「奥の細道」にちなんで名付けられた二つの太鼓型の橋「**百代橋**」と「**矢立橋**」は、草加市のシンボルとなっています。

草加宿を訪れた文学者・**正岡子規**や**俳人・水原秋桜子**の**句碑**なども建てられています。また、おせん公園には芭蕉に随行した**河合曾良**の像もある。

奥の細道では千住を出発して最初に草加で一泊したと書かれているが、実は最初は粕壁まで行ったという。粕壁宿は江戸から 9 里 2 丁 (35.6km) ある。

昔の人は健脚だ！

## <藤助河岸>

藤助河岸は高橋藤助による施設河岸で江戸中期頃から綾瀬川の舟運で繁盛した。明治・大正と利用され昭和初期に姿を消した。



矢立橋



百代橋

## ＜蒲生の一里塚＞……越谷市

埼玉県内の日光街道筋で唯一現存する一里塚。街道の東側の塚が残っていません。一里塚から蒲生本町交差点に至るまでの道は蒲生茶屋通りと名付けられている。今でこそ面影を留めるものは何もないが、かつては茶屋が軒を連ねる立場があったらしい。



## ＜ぎょうだいさま＞

鳥のような河童のような、なんとも不思議な形の石の塔が建っています。この地域の人はこちらを「ぎょうだいさま」とよび、わしの神様だと言っています。裏に回るとちょっと見えるようです。



宝暦7年(1757) 建立。これには、「砂利道供養」と刻まれていて、この年に日光街道の大きな修理があり、完成を記念して蒲生の人々が建てたもので、道を歩く村びとや旅びとの道中安全を願って“わらじ”を供えてお祈りしたといえます。

## ＜清蔵院＞

天文三年(1534) 創建、本尊は十一面観音。

山門は部分的に改修されているが、寛永十五年(1638)の関西の工匠の作と伝わる。山門の龍は金網で覆われている。この龍は左甚五郎の作とされ、夜な夜な山門を抜け出して畑を荒らしたことから、これを金網で囲ったといわれている。



<帰路>

蒲生（東武）－新越谷・南越谷（武蔵野線）－新秋津－所沢着 約 1 時間